

市政記者各位

令和5年10月3日

取材
依頼

住吉神社能楽殿リニューアル！ オープニング式典・イベント開催

雨漏り等により能舞台の使用が制限され、能楽師や市民から早急な整備要望の声があがってから約5年。令和3年度から実施してきた、住吉神社能楽殿（福岡市指定有形文化財）のリニューアル工事が竣工しましたので、市長出席のもと下記日程で記念式典等を開催いたします。当日の取材についてご協力よろしくお願ひします。

式典・イベント

【日時】 2023年10月7日（土） 13:00～15:00
【会場】 福岡市博多区住吉3丁目1-51 住吉神社能楽殿
【内容】

13:00～ 住吉神社能楽殿お披露目式（住吉神社主催）

- ・お白石持ち行事（能舞台と客席の間の白州の石を並べて完成とする行事）
- ・主催者挨拶（横田宮司）
- ・来賓挨拶（高島市長） 等

13:30～ イベント（福岡市主催）

- ・主催者挨拶（高島市長）
- ・記念パフォーマンス
「めで舞たい」



今宿青木獅子舞

穴井豪(ダンサー)

木下隆也(アコーディオン)

太田圭亮(Vn・編曲)

なかしま拓(手笛)

- ※福岡市の伝統文化「今宿青木獅子舞」と現代福岡九州を代表するアーティストによるダンス・音楽（現代版黒田節）のコラボ。能楽殿竣工と新旧芸能の発展を祝い、これからの願ひます
- ・インバウンド向け伝統文化体験会、バックヤードツアー

リニューアルのポイント

POINT1 国内に現存する希少な純木造能楽堂 往時の姿に復元

住吉神社能楽殿は、戦後九州はもとより国内を代表する、能楽上演の拠点でした。今回のリニューアル工事で見つかった建築当時の部材を基として、外観および内観の一部が復元され、西日本随一とよばれた往時の姿によみがえりました。



POINT2 空調・照明・トイレを整備 ユニークベニュー活用に期待

建物全体の空調および照明を整備することで一年中快適に利用できる空間として生まれ変わりました。また、トイレを洋式化することで、多方面に利用しやすい環境を整えました。イベントやパーティー会場などの活用が期待されます。



住吉神社能楽殿について

概要

所在地：福岡市博多区住吉 3 丁目 1 番 51 号（住吉神社内）

所有者：宗教法人住吉神社

建設年代：昭和 13(1938)年 ※竣工から 2023 年で 85 年

構造形式及び大きさ：木造平屋建、平面積 516 ㎡

文化財指定：平成 12 年 3 月 23 日・福岡市指定有形文化財（建造物）

特徴

大正時代警固神社の能楽堂が老朽化し、能を演じることが困難になったため、昭和 10 年頃、能楽関係者から新たに筑前一の宮である住吉神社境内に能楽殿を建築する計画が興り、昭和 13(1938)年落成しました。

能楽殿はその後昭和 61(1986)年に大濠公演能楽堂が完成するまで、西日本随一といわれ、九州はもとより国内を代表する演能の舞台でした。戦前と同じ場所に建ち、大幅な改築を行っていない能楽堂は住吉能楽殿のほかは、山本舞台(現杉並能楽堂)等、全国でも現存例が少なく、貴重な建造物です。

能舞台が能楽殿の室内に内包される入れ子式で、檜皮葺き屋根の能舞台、板床の客席、楽屋で構成されます。舞台周りの意匠は洗練された装飾でまとめられ、建築材料には檜をふんだんに用い、経年による独特の風合いが発揮されています。また、舞台向かって右手に「棧敷」の貴賓席を設けるなど、純和風の格式と風格のある造りの能舞台となっています。

能楽殿は板床「座式」の客席で、現代の能楽堂とは異なる、舞台と客席との緊密な一体感が特徴です。また、能楽殿は全体が木質構造であることや、舞台床下地面を掘って大甕を据える伝統技法の使用等により、音響効果にも優れ、劇場建築としても現代の演者から高く評価されています。

今回のリニューアルでは文化財である建造物の価値を保持しつつ、現代的な改修を行いました。また、発見された当時の部材や痕跡から、外壁を縦板張りに、内部の「虹梁」※を当時の形式に変更する等、往時の姿への復元をめざしました。（※虹のように上方にやや反りを持たせた梁）



住吉神社能楽殿竣工外観イメージ



住吉神社本殿



住吉神社能楽殿 能舞台



住吉神社能楽殿 客席



発見された建築当初の虹梁